

Hi! アンドレです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

フィリピンでの新年の祝い方

みなさん、新年あけましておめでとうございます！
「Time goes by when you're having fun!」（楽しいことをしているときは時間が経つのが早い!）という英語の表現があります。あなたが何かに熱中し、それが本当に好きであるならば、時間はあっという間に過ぎるでしょう！私は先日、公民館で英会話教室の準備をしているとき、ここ小野町で過ごす時間が本当に早く過ぎ去っていくという話を同僚にしました。私は小野町に1年半もいるということが信じられません！私はたくさんの素晴らしい人々に会い、多くの経験をしてきたので、感じたこと全てを言葉で表すことは難しいです。実際のところ、小野町での経験はとても良いものでした。

世界中の人々が新年を祝っています。みなさんはなぜ新年を祝うことが重要であると考えますか。私は、これには様々な理由があると考えます。フィリピンでは、旧年が書かれているタスキを掛けた老人が立ち去る姿と、新年が書かれたタスキを掛けた赤ちゃんが入ってくる姿を描いた芸術作品が、新聞や雑誌に掲載されます。私はこの絵が、新年がみなさんにとってどんなものかを表す強力な表現であると考えます。新年は新しいこと、そして再出発するためのチャンスを私たちに与えてくれます。世界中の人々は、その年に達成させたい目標を掲げ、新年の決心をします。例えば、禁煙する、瘦

せる、もっと多くの時間を家族と一緒に過ごすなど・・・。

フィリピンでは、新年を祝うことは宗教的なことでもあります。大部分がカトリック信者であるフィリピン人は、夜の10時30分頃教会へ行き、昨年受け取ったものや経験したこと全てについて神に感謝をします。それから11時30分頃家に戻り、新年を歓迎するために真夜中の12時ちょうどに花火を上げます。フィリピン人は花火を上げることで、そして真夜中にたくさんの音を立てることが、悪魔を追い払い良い人を歓迎すると信じています。花火のあと、それぞれの家族は一緒に新年の食事をします。

私は、この新年が私たち全員に幸せと喜びを運んでくることを願っています。



フィリピンにて両親と

ふるさと小野町会 ふれあい通信

祭り太鼓は青春の音

金田 八重子

(上羽出庭出身・東京支部)



昭和16年の9月、農家の8人兄弟の7番目の子として生まれました。小学校4年生の時、父はガンで亡くなりました。しかし、甥や姪が次々に生まれ、家の中は賑やかで、淋しさは感じずに成長しました。

私が中学校1年生の冬、あの頃の「アンカコタツ」から出火し、家が丸焼けになり、貧乏のどん底の生活となりました。2歳上の姉は、通っていた高校を退学して、家の手伝いをして、タバコ栽培や稲作にと、昼も夜もなく働きました。母屋が建てあがるまでの間は、電燈もなくランプ生活を続けました。

ある朝登校し教室に入ると、私の机の上に、カバン・ノート、ゴム長靴が置いてありました。同級生のみな

さんが、おごづかいを集めて、私のためにプレゼントしてくれた品々です。うれしくてうれしくて、お礼の言葉もすくには出ませんでした。どの友達も、当時のごごかいなんて少なかつたはずなのに。あの事を思い出すと、今でも胸が熱くなります。

卒業後は実家を手伝い、兄弟婦と共に農業に精を出しました。あの頃の楽しみは、秋祭りや青年団の仲間との旅行でした。祭りが近づく、昼は稲刈りをし、夜は演芸会の練習でクタクタに疲れるまで励み、若かったのでしょうか、気がつくとも朝になつていた事を覚えています。農閑期には、青年団の仲間達と共に軽トラックで、裏磐梯や土湯温泉方面へ旅行をしました。あの頃の貧しくとも楽しかった青春時代の思い出は、私の宝物です。

二十歳の時、叔母を頼って上京しました。辛い事、悲しい事も経験しましたが、昨年、町内会の親睦旅行で小野町出身の方と出会い、驚きと感激でした。そして、小野町会へ入会し、総会や支部活動、ふるさと訪問ツアーに参加し、懐かしい友達との再会等、これからの人生に夢と希望をもらいました。

ふるさとを守って下さっている町民の皆様と友人の方々に、深く感謝申し上げます。